

第三章 立会・試掘調査

III—1 黒髪北地区

(図17・18参照)

1. 黒髪団地北地区教室新築に伴う試掘調査

<調査期間>

2003年10月27日

<調査対象面積>

13.75㎡

<調査員>

実施者：坂田和弘（熊本県文化課）

立会者：小畑弘己・大坪志子

<調査概要・結果>

法科大学院の設置にむけた、校舎新築工事に伴い熊本県教育庁文化課坂田和弘氏によって試掘調査が実施され、調査室調査員が立ち会った。

校舎新築予定地の南西隅に、トレンチを2本T字にな
写真25 試掘地点調査風景（北西より）



写真26 トレンチ1 掘削状況（西より）



るように設定し、掘削を行った。1トレンチでは表土下1mまでが近・現代の埋土で、その下に厚さ80cm程の遺物包含層が確認された。包含層にはピット状の遺構が掘り込まれている。表土から2.4mで地山を確認した。2トレンチでも土層の様子は同様であった。こちらの方が若干浅く、2.2mで地山を確認した。地山で大小6個のピットを検出した。遺物としては土師器片が数点出土した。

2. 黒髪団地北地区教室新築に伴う立会調査 (0313)

<調査期間>

2004年1月15～19日

2004年3月10日

<調査対象面積>

398.8㎡

10㎡

<調査員>

小畑弘己

<調査概要・結果>

本体部の基礎工事に伴う掘削で-50cm下げた状態で土層を観察したが、試掘調査の結果にもあるように、この深度ではまだ埋土の状態であった。遺構・遺物とも検出していない。

また、新築建物と既存建物間に電気配線を引くため新築建物の西側と東側に2箇所掘削を伴う工事が実施された。地表下-70cmを掘削したが、既存建物の基礎用の掘削に伴う破壊を被っていたことやこの深さまで埋土であることなどから、遺構・遺物ともに検出できなかった。

写真27 土層（南より）

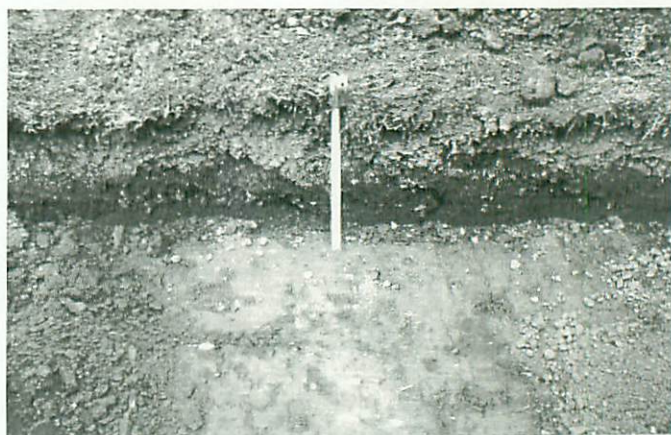


図17 黒髪北地区西半における調査地点配置図 (1/2000)

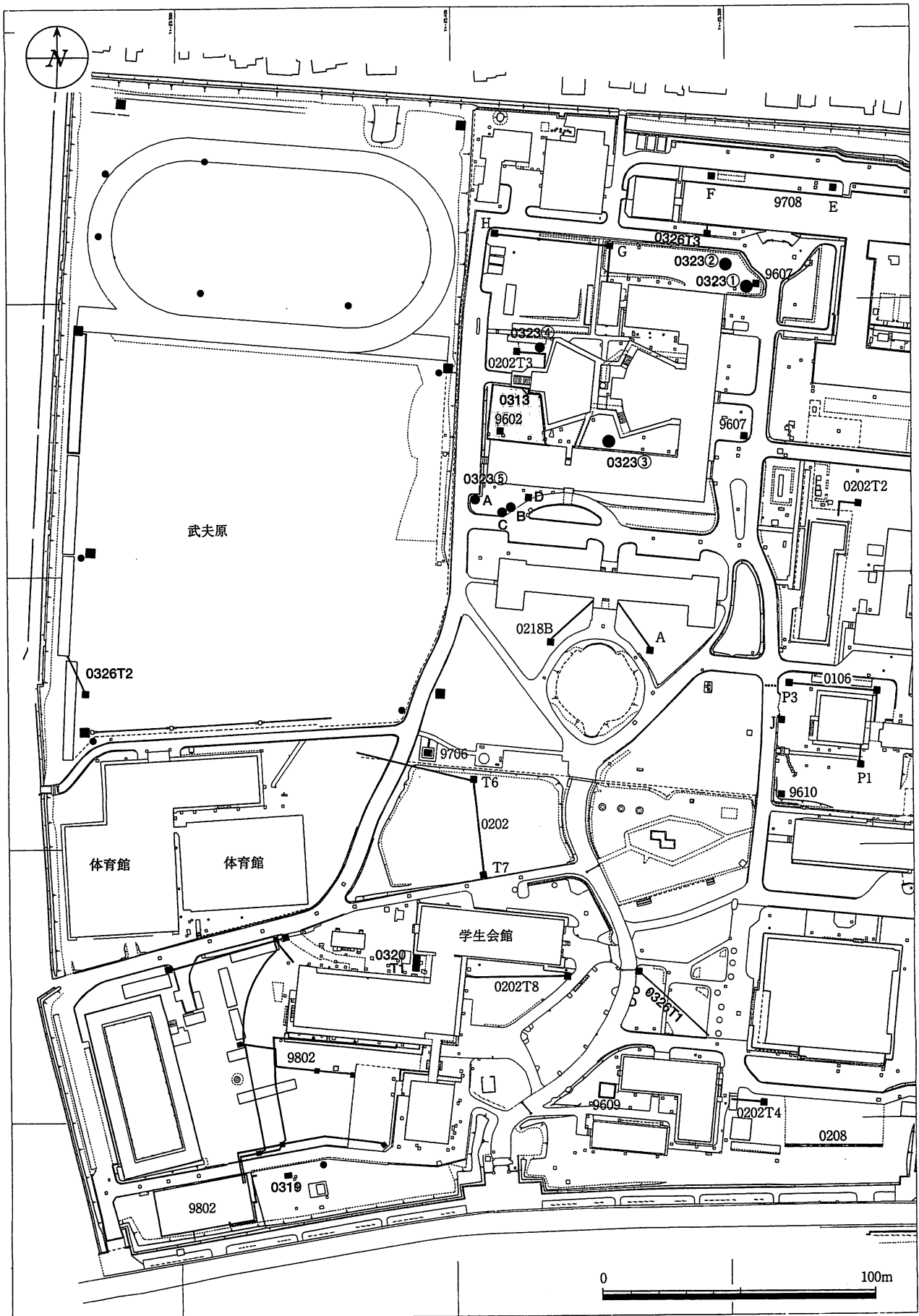
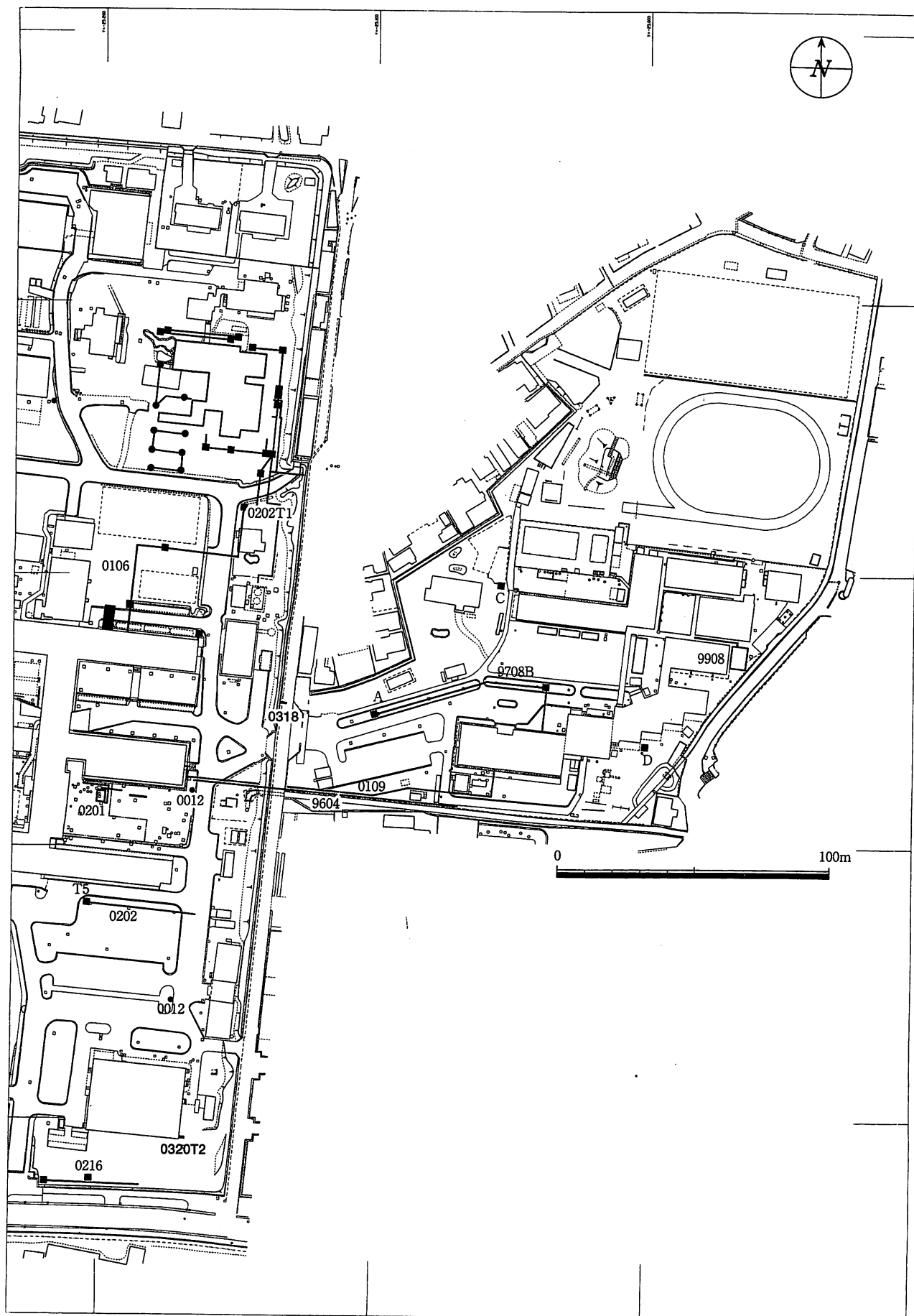


図18 黒髪北地区東半における調査地点配置図 (1/2000)



Ⅲ—2 黒髪南地区

(図8参照)

1. 黒髪団地南地区工学部薬品庫新設に伴う立会調査 (0301)

<調査期間>

2003年4月10日

<調査対象面積>

2 m²

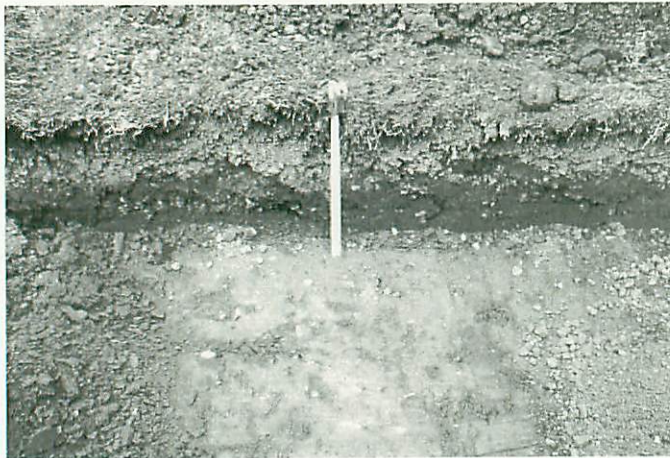
<調査員>

小畑弘己・大坪志子.

<調査概要・結果>

工学部の薬品庫新設工事に伴う立会調査である。予定地の北西に1×2mのトレンチを設定して掘削を行った。掘削予定の地表下60cmまで掘削したが現代埋土で、遺物包含層や遺構面には達しなかった。

写真28 作業風景 (西より)



2. 黒髪団地南地区総合研究棟共同溝設備工事に伴う試掘調査 (0302)

<調査期間>

2003年4月10日

<調査対象面積>

9.6 m²

<調査員>

小畑弘己・大坪志子.

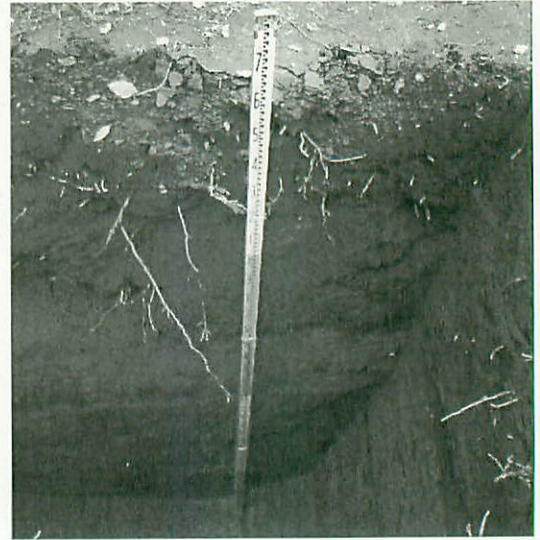
<調査概要・結果>

共同溝設備工事に伴い、工学部9号館南側の東西約60mの範囲にトレンチ3箇所(東端・中央・西端)を設定して試掘を行った。

中央1トレンチでは旧建物の基礎などが廃棄されていた。東端の2トレンチでは9909調査地点で確認したものと同等と思われる畑の畝の砂層が、地表下2.5mで確認され、3.8mで地山に達した。西端の3トレンチでは地

表下3.5mまで掘削したが、軟らかい土と砂の互層が続く、包含層・遺構面は検出されなかった。

写真29 トレンチ3掘削状況 (北より)



3. 黒髪団地南地区総合研究棟共同溝設備工事に伴う立会調査 (0302)

<調査期間>

2003年7月18日

<調査対象面積>

296 m²

<調査員>

大坪志子.

<調査概要・結果>

試掘調査を行った。工学部9号館南側の東西の共同溝設備工事の際立会調査を行った。予定範囲の西側から順次掘削を進めた。しかし、試掘調査で得られた結果と同様で、旧建物の基礎などの攪乱が多く、またその他の地点では遺物包含層や明確な畑の畝の続き、遺構は検出されなかった。

写真30 作業風景 (東より)



4. 黒髪団地南地区総合研究棟共同溝設備工事に伴う立会調査（ガス管）（0302）

<調査期間>

2003年11月26日

<調査対象面積>

3.6㎡

<調査員>

大坪志子.

<調査概要・結果>

黒髪南地区総合研究棟工事に伴い、新設共同溝（0302本調査地点）から工学部資料館側にある既設管へ東西にガス管を配管する工事が行われ、立会調査を行った。一部、障害物撤去のために地表下1.2mまで掘削し、古代～縄文時代の遺物包含層を確認した。他の工事区間においては包含層には達しなかった。

写真31 掘削状況（西より）



5. 黒髪団地南地区事務局配水管修理工事に伴う立会調査（0303）

<調査期間>

2003年5月20日

<調査対象面積>

16.8㎡

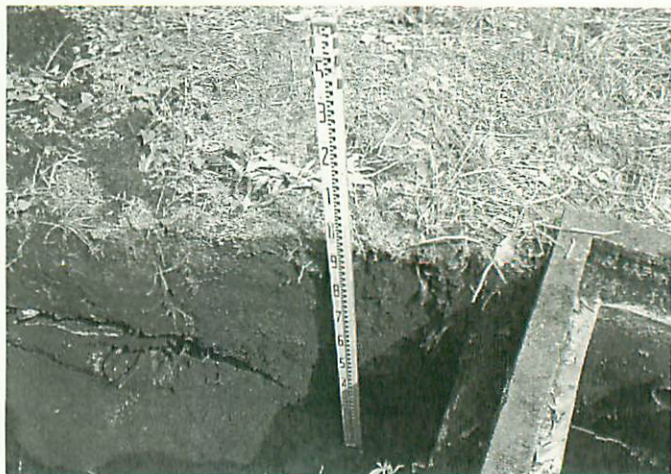
<調査員>

小畑弘己.

<調査概要・結果>

排水管修理のため、新たに幅60cm、長さ21mにわたって掘削が行われた。主な排水管は既存の土管理設溝によって東半分を地表下1mくらいまで攪乱されていた。地山（従来の遺構検出面）は地表下60cmくらいで検出される。その上部の20～30cmの黒褐色度は周辺地区では遺物包含層に相当するが、今回は遺構・遺物ともに検出していない。

写真32 掘削状況（南より）



6. 黒髪団地南地区理学部4号館周辺プレハブ等設置工事に伴う立会調査（0316） 伴う試掘調査

<調査期間>

2004年2月9日（駐車場建設部分）

2月16日（プレハブ設置部分）

<調査対象面積>

50㎡（駐車場建設部分）

33㎡（プレハブ設置部分）

<調査員>

小畑弘己.

<調査概要・結果>

駐車場建設部分（2月9日立会）は、地表下5～10cmほどの掘削で、ほぼ芝土を剥がす程度であったため、表土・埋土内に収まり、遺構・遺物ともに検出していない。

プレハブ建設部分（2月16日立会）も、地形が傾斜していたため、高い部分で地表下30cmほどを掘削して地均しを行っているが、この部分も埋土の範囲内に収まり、遺構・遺物ともに検出していない。

写真33 掘削状況（西より）



Ⅲ—3 本荘北地区

(図2参照)

1. 本荘団地北地区中央診療棟（軸）設営工事に伴う立会調査（0311）

<調査期間>

2003年12月10日

<調査対象面積>

4 m²

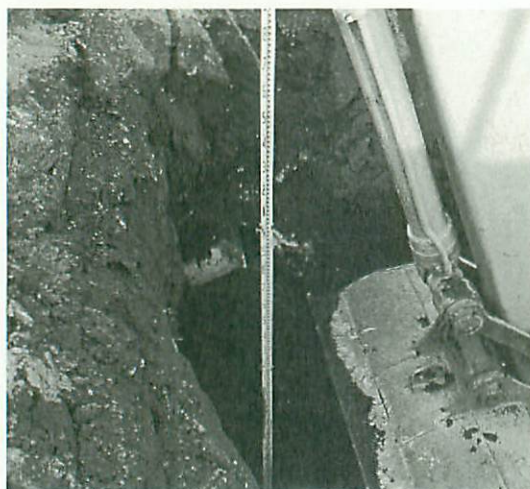
<調査員>

大坪志子

<調査概要・結果>

中央診療棟新営に関連する、防火水槽移築工事に伴って立会調査を実施した。予定範囲内の西側には旧建物の基礎が廃棄されており、東側の2×2mの範囲を掘削した。地表下2.3mで地山を検出したが、この部分においても直上まで攪乱であった。遺物は近代の陶磁器片が出土したのみである。

写真34 掘削状況（北より）



2. 本荘団地北地区東側駐車場整備工事に伴う立会調査（0315）

<調査期間>

2004年1月30日

<調査対象面積>

30.7m²

<調査員>

小畑弘己

<調査概要・結果>

本工事は樹木を伐採して、根切りせず、抜根という手法で工事を行うため、土地の掘削を伴わなかった。よって、土層の観察作業なども発生していない。

3. 本荘団地北地区楷樹の木移植に伴う立会調査（0317）

<調査期間>

2004年2月23日

<調査対象面積>

16m²

<調査員>

小畑弘己

<調査概要・結果>

中央診療棟建設に伴う樹木移植先の移植用の穴の掘削に伴い立会調査を実施した。4×4mの範囲で、地表下約2mまで掘削を行った。地表下1.8mで黄褐色の地山が現れたが、この面に遺構は存在しなかった。地表下1mほどで旧建物の基礎が現れ、その他の部分においても攪乱が著しかった。旧地山は削平されている可能性がある。上部90cmほどは黄褐色のシルト層と褐色土の混じる層であり、中から土師器片5点ほどが出土した。これはこの地点を埋める際に他の地点を削平した土を搬入したためと思われ、遺物は本来の出土位置を保っていない。

写真35 掘削風景（東より）



写真36 土層堆積状況（南より）



Ⅲ—4 本荘南地区

(図15参照)

1. 本荘団地南地区凍結保存棟新設に伴う配管移設工事（うち動物慰霊塔建設）に伴う立会調査（0309）

<調査期間>

2003年10月2日

<調査対象面積>

4.02㎡

<調査員>

大坪志子.

<調査概要・結果>

動物慰霊碑の建設工事に伴う立会調査を行った。基礎部分の3.6×3.7mの周囲を幅30cm程度人力により、地表下35～40cmまで掘削した。全て埋土で、遺物包含層や遺構面には達しなかった。なお、当日現地状況により建設場所を北側へ4.5m移動した。このことについては県文化課へ連絡、許可を得て施工した。

写真37 作業風景（北より）



2. 本荘団地南地区発生医学研究センター整備事業配管工事に伴う立会調査（0310）

<調査期間>

2003年11月17日～11月28日

<調査対象面積>

557㎡

<調査員>

小畑弘己.

<調査概要・結果>

配管工事に伴う掘削であり、配管部分の地表下90cmほどの掘削である。

医学部の西南部を周回する掘削であるが、地表下

90cmほどはいずれも攪乱もしくは表土・埋土であった。現状が道路部分にあたるため、ほぼ全地域において配水管やガス管、排水管などの設置に伴う掘削工事によって攪乱を受けている部分が確認された。

遺構・遺物は検出できなかった。

写真38 作業風景（西より）



写真39 土層堆積状況（東より）



3. 本荘団地南地区発生医学研究センター整備事業本体工事に伴う試掘調査

<調査期間>

2003年12月9日

<調査対象面積>

26.58㎡

<調査員>

実施者：坂田和弘（熊本県文化課）.

立会者：大坪志子.

<調査概要・結果>

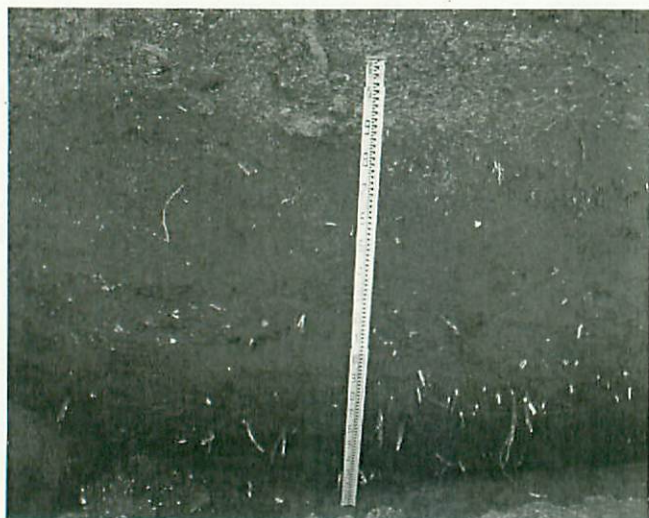
発生医学研究センター本体工事の為の試掘調査が、熊本県教育庁文化課坂田和弘氏によって実施され、大坪が

立ち会った。実施時には、予定範囲内において旧建物の解体作業中であったため、北・東・南端にトレンチを設定して掘削を行った。1トレンチでは地表下1.6mほどで古代の遺物包含層、その下15cmで地山を確認した。遺構は検出されなかった。2トレンチでは地表下1.4mで地山を確認した。ここでは地山が溝状になっており、南側で立ち上がりを確認した。溝状遺構の方向は、西北西—東南東である。溝の底では水が作用したような褐色の銹物の沈着が確認できた。3トレンチでは1.25mで地山を確認した。2・3トレンチで地表下1mほどで検出される灰茶色の層は中世の遺物包含層かと思われる。

写真40 作業風景（東より）



写真41 トレンチ2西壁（東より）



Ⅲ—5 京町地区

(図19参照)

1. 京町地区附属小・中学校フェンス設置工事に伴う立会調査 (0305)

<調査期間>

2003年8月19日

<調査対象面積>

44.3㎡

<調査員>

小畑弘己.

<調査概要・結果>

敷地外周を巡る正面側のフェンス設置部分1箇所および西側の部分2箇所を立会調査した。掘削レベルにおいてはいずれも埋土もしくは攪乱土で、遺構・遺物ともに検出されなかった。

写真42 調査地点近景（東より）



写真43 掘削状況（南より）

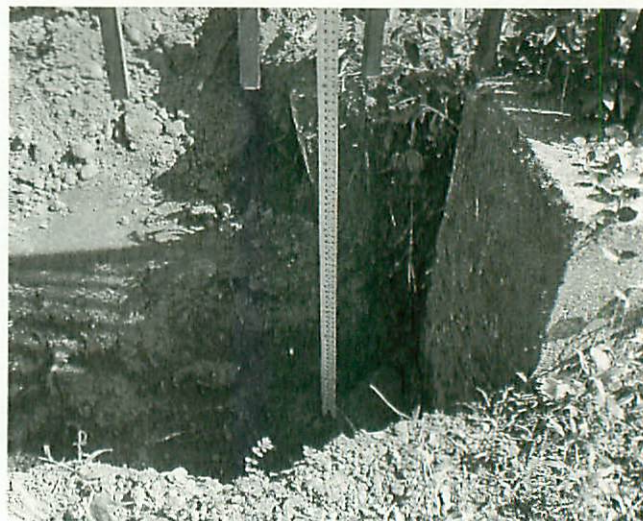


図19 京町地区における調査地点配置図 (1/3000)

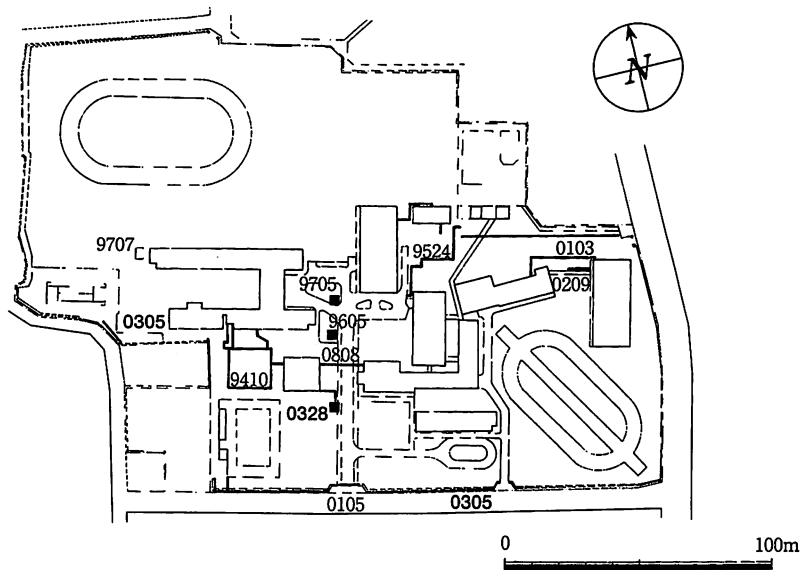
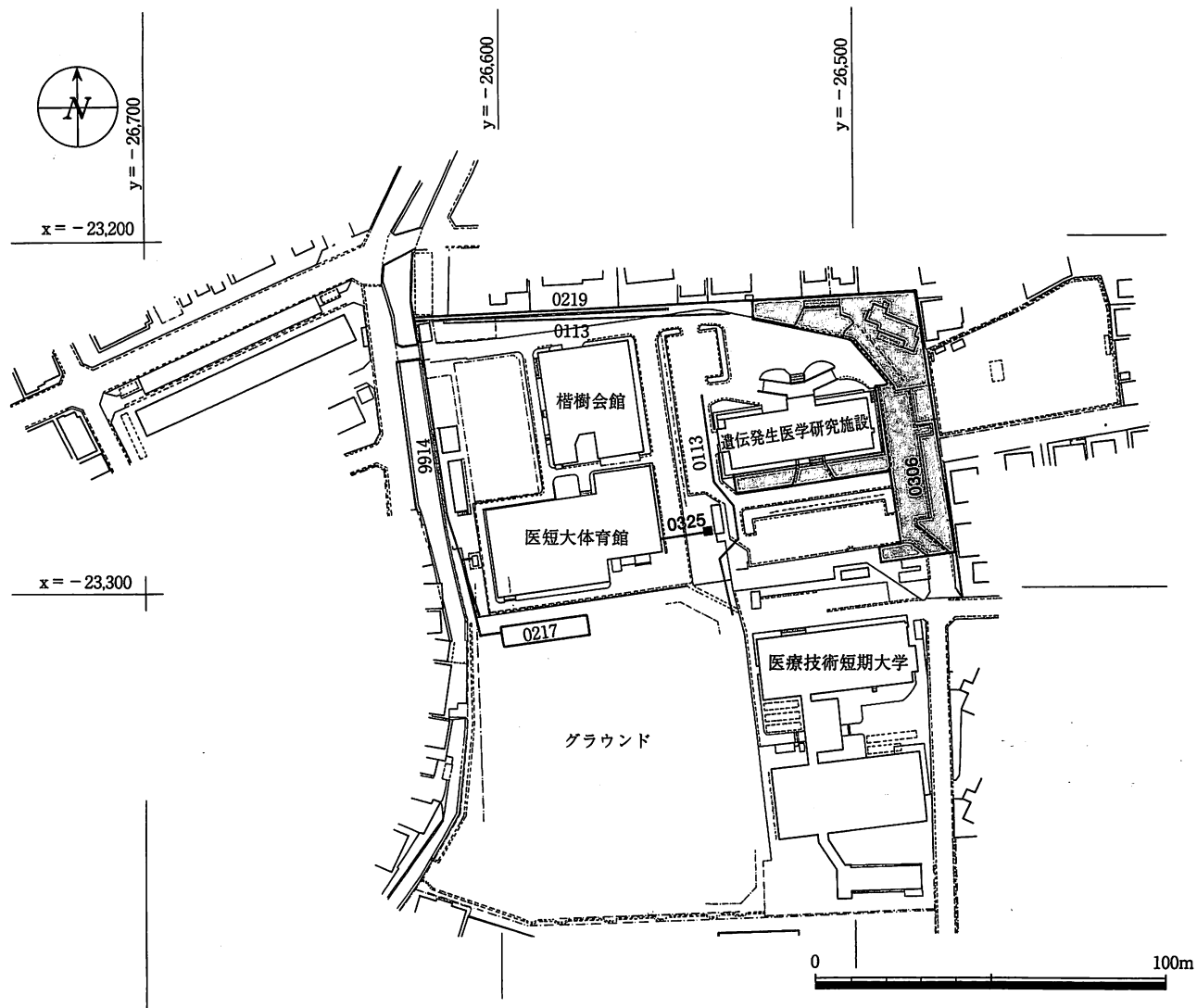


図20 九品寺地区における調査地点配置図 (1/2000)



Ⅲ—6 九品寺地区

(図20参照)

1. 九品寺地区医療技術短期大学部北側駐車場環境整備工事に伴う立会調査 (0306)

<調査期間>

2003年9月4日～9月8日

<調査対象面積>

539.2㎡

<調査員>

小畑弘己.

<調査概要・結果>

発生医学センター南側の低木移植先を2箇所、東側の駐車場整備部分の樹木移植地点1箇所を地表下1mほど掘削して土層の状態および遺構の残り具合を確認した。発生医学センター南側の樹木移植部分は地表下1mほどまで攪乱であった。駐車場部分において地表下1.2mで黒色土を確認したが、遺物は包含していなかった。

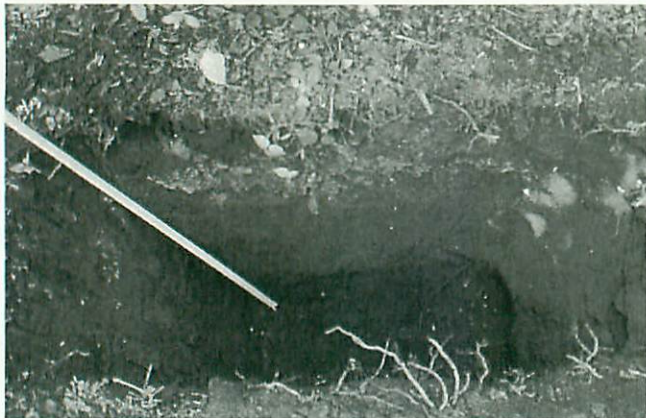
整備工事に伴って掘削深度が地表下1mを超えるものではなく、土層の堆積状況から残りの部分においても問題はないものと判断した。

遺構・遺物は検出していない。

写真44 駐車場トレンチ3作業風景 (南より)



写真45 トレンチ3南壁土層 (北より)



Ⅲ—7 薬学部地区

(図21参照)

1. 薬学部地区大江総合研究棟給排水管および電気工事に伴う立会調査 (0307)

<調査期間>

2003年9月5日

2004年1月14日

<調査対象面積>

7.54㎡

45.5㎡

<調査員>

小畑弘己.

<調査概要・結果>

試掘坑1においては地表下50cmにおいて茶褐色土が、同90cmにおいて黒色土が認められた。この黒色土は厚さ20cmほどであり、周辺地域の状況から判断して古代以前の遺物包含層であるが、本地点では遺物・遺構ともに検出されなかった。試掘坑2は地表下90cmまで攪乱を受けていた。試掘坑3は建築本体部に隣接し、その土層観察により掘削深度(地表下80cm)まではまったく問題ないと判断した。

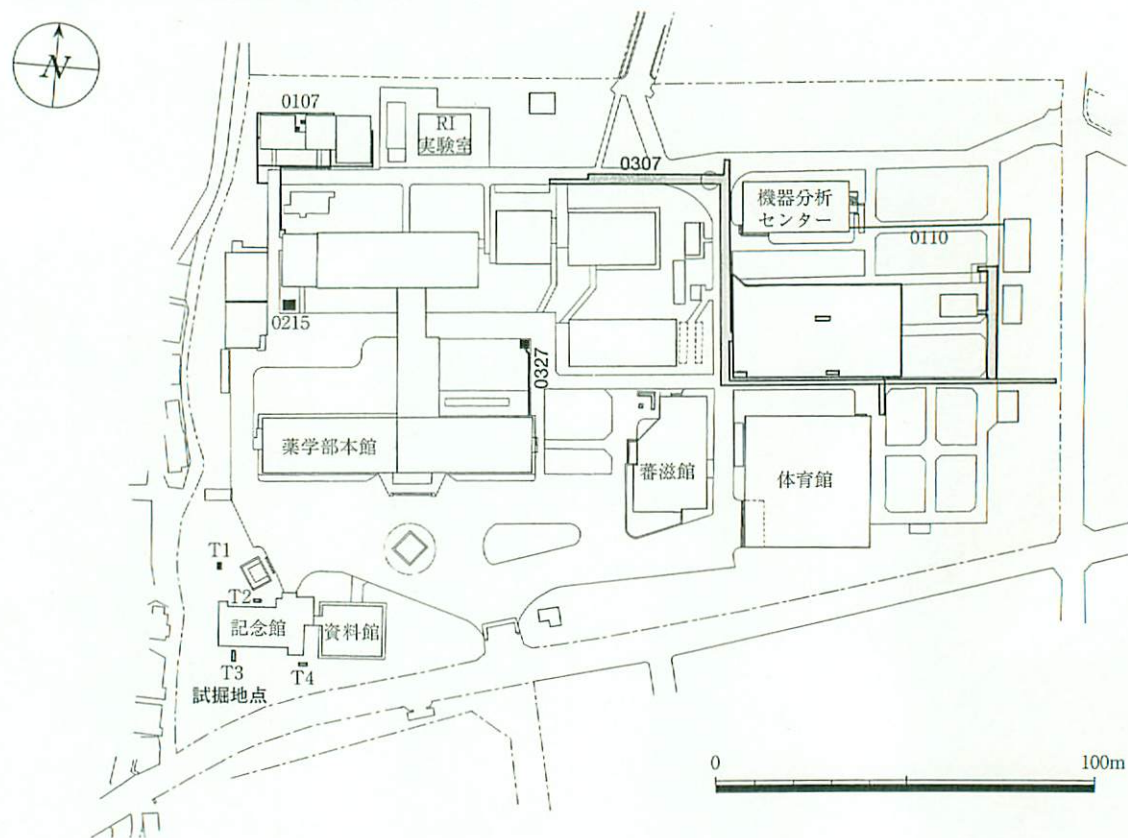
写真46 トレンチ1南壁 (北より)



写真47 研究棟敷地深掘部 (南西より)



図21 薬学部地区における調査地点配置図 (1/2000)



建物本体部の土層は地表下50cmほどが埋土で、その下1mあまりが暗茶褐色土であり、その下部の黄褐色土とは不整合面をなす。試掘調査においても遺構・遺物は発見されていない。

2. 薬学部地区薬学部記念館（仮称）建設に伴う試掘調査

<調査期間>

2003年11月6日

<調査対象面積>

7.4㎡

写真48 作業風景（北より）



<調査員>

実施者：坂田和弘（熊本県文化課）。

立会者：大坪志子。

<調査概要・結果>

薬学部記念館（仮称）建設工事に伴い、熊本県教育庁文化課坂田和弘氏によって試掘調査が実施され、大坪が立ち会った。建設予定地内にある記念館の北側・南側の東西にそれぞれ1箇所ずつ、合計4箇所にトレンチを設定して掘削を行った。おおよそ、地表下0.8mで古代の遺物包含層、1~1.2mで地山を確認した。遺構は確認されなかった。また、遺物も須恵器片が1点出土したのみ

写真49 トレンチ2掘削状況（西より）



であった。

3. 薬学部地区薬草園取設工事に伴う立会調査 (0312)

<調査期間>

2004年1月13日

<調査対象面積>

11.2㎡

<調査員>

小畑弘己。

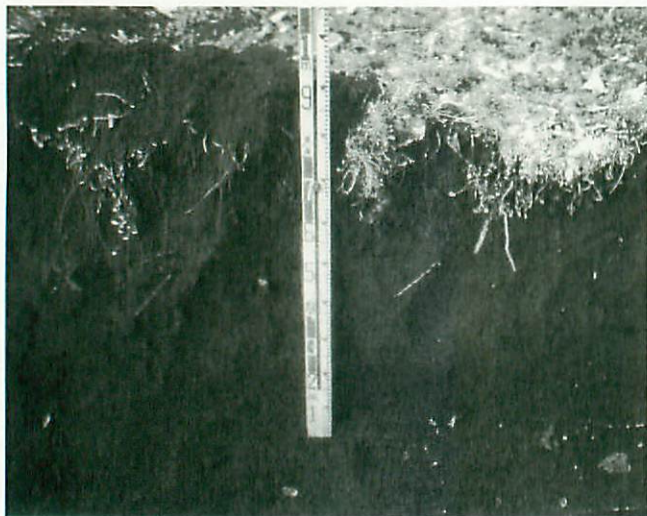
<調査概要・結果>

地表下50cmほどで茶褐色土、同60cm～80cmが黒褐色土である。その下部はまた茶褐色土層と黒褐色土が10cmほどずつ堆積している。上部の黒褐色土から土師器皿の小片が出土した。本層が遺物包含層の可能性が高いが、遺物量は3点ほどで、きわめて少なかった。遺構は検出していない。

写真50 作業風景（北より）



写真51 掘削状況（東より）



Ⅲ—8 宇留毛地区

1. 宇留毛地区小碩宿舍1号棟揚水管漏水修理工事に伴う立会調査 (0308)

<調査期間>

2003年9月29日

<調査対象面積>

3.64㎡

<調査員>

大坪志子。

<調査概要・結果>

宇留毛地区小碩宿舍1号棟の揚水管漏水修理工事に伴い、立会調査を行った。既設管の一部を掘り起こし、別ルートでポンプ室に繋げる工事であった。幅0.4m、深さ約0.6mで新設ルートの掘削を行ったが、この深さまではすべて埋土で遺物包含層や遺構面には達しなかった。

写真52 作業風景（北西より）



写真53 掘削状況（南西より）

